

令和4年度4月 定例教育委員会会議録

令和4年4月19日（火）

山梨市教育委員会

令和4年度4月 定例教育委員会 議事録

令和4年4月19日（火）午前10時から、山梨市役所401会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 職員紹介
- 4 協議事項
 - (1) 不登校対策（山梨市教育支援センター）について
 - (2) 令和の日本型教育を踏まえた特色ある教育について
 - (3) その他
- 5 連絡事項
- 6 閉会

○出席者

教育長	嶋崎 修
教育長職務代理者	窪田 新治
教育委員	佐野 千春
教育委員	武井 茂
教育委員	矢野 眞由美

○欠席者

なし

○事務局職員出席者

学校教育課長	磯村 賢一
生涯学習課長	角田 弘樹
学校教育課 指導主事	小串 吾郎
学校教育課 学校教育担当リーダー	星野 正裕
学校教育課 学校総務担当リーダー	小池 かおり
学校教育課 学校管理担当リーダー	小泉 健一
学校教育課 学校給食センター担当リーダー	久保川 貴教
学校教育課 学校教育担当	
教育支援センターWith事務局長	古屋 真吾
学校教育課 学校総務担当（議事録作成者）	小田切 咲紀

4 協議事項の内容

司会 磯村課長

議事の進行を教育長にお願いします。

教育長

議事に入る。

(1) 不登校対策（山梨市教育支援センター）について、事務局から説明をお願いします。

古屋 教育支援センターW i t h 事務局長 資料1に基づき説明

- ・山梨市教育支援センターW i t h（ウィズ）が5月9日から本格実施し一日開設となる。
- ・山梨市の不登校対策に10の施策を作って取り組んでいく。

教育長

事務局から基本的な方向性が示された。意見質問はあるか。

窪田職務代理

山梨市の不登校者数は徐々に減っているとはいえ特に中学校では高い状態なので、少しでも数を減らすための推進になれば良い。ある面ではウィズに来る子どもは不登校の中でもここに来れるという意味で心配がまだ少ないと言える。学校にも行けずウィズにも来れない、他の場所にもどこにも外出できないような子どもたちにどう支援していくかも考えなければならない。大変だとは思いますが学校や様々な機関と連携しながら、そういう面でもウィズが橋渡し役になれば良いと思う。

矢野委員

昨年度も不登校の生徒が前向きに取り組むように変わったと聞いて嬉しく思った。今年度直通電話ができたことで、来れない子どもたちも電話をしてみようと思う子どもがたくさん出てくるのではと思っている。四人の先生の取り組みに期待している。

佐野委員

資料内の「教師としての基本的スタンス」が素晴らしいと思った。子どもが中学生だった当時、不登校はまだ珍しかったが、担任の先生や部活の先生がとても良い先生で「大丈夫ですよ」と親を励ましてくれて、子どもも復帰できた。今、いろい

ろな保護者の話を聞く中で、「こんなに休んでいたら高校に行けない」と言う先生が多いようで、そうなる親はどうしようと心配して子どもに行きなさいと責めてしまうという悪循環が起こる。ぜひこのスタンスに則り、子どもを励まして親が安心できる関係を築いてほしい。

質問だが、ウィズでは一人一台端末を使ってリモート授業を行うことはできるのか。

古屋事務局長

在籍校の校長に働きかけ、一人一台端末をセンターで使えるようにしていく。センターはW i f i 工事を行っており十分に対応できると考えている。

武井委員

本市は不登校児童生徒が多く大きな課題になっている。現在ウィズに参加予定の児童生徒はどのくらいいるのか。また、月曜から金曜まで一日中の実施となるが、具体的な一日のカリキュラムを教えてほしい。

古屋さん

親子面談を済ませ開所から参加予定となっている子どもが6、7人いる。一日の計画は暫定的に立てているが、朝来た子どもたちが自分で何をしようか決めて進められるようにしたい。初めから一日いられることはないと考えており、まずは子どもたちが自分のペースで来たい時に来て帰りたい時に帰ることから始めて、徐々に時間を延ばしていこうと考えている。大切なことはまずは先生とのリレーションを作ることであり、無理のないスケジュールを立てていければと思う。また、体験学習として植物の栽培やメダカの飼育、遠足等を計画している。実際の子どもの様子を見ながら特色ある取り組みもしていきたい。

武井委員

教育相談の面でも充実させ、各関係機関と連携を取り、拠り所としての基礎を作ってほしい。

教育長

ドリルを解くだけの学習ではなく一緒に楽しさを感じられる取り組みを考えている。他に意見質問はあるか。

武井委員

中学校の不登校者数は取り組みによって減ってきているが、小学校が若干増えてきているのが心配だ。指導主事と小学校で連携して取り組んでほしい。

小串指導主事

各関係機関との連携が大切だと思っている。相談支援の充実を図り庁内各課とも

連携して進めていきたい。

古屋事務局長

5月2日にオープニングセレモニーを予定している。

教育長

先日県からの調査で不登校の数値割合での目標を出すよう依頼があった。一概に何パーセントと言えるものではないが、気持ちの面では100パーセント、現実的な目標としては中学校の3年間や小学校低学年・高学年の3年間を区切りとして、3年のスパンで33パーセント程度減らせるよう取り組んでいければと思う。

小串指導主事

とても数値で測れるものではないが、そういう気概を持って進めていきたい。

教育長

次に(2)令和の日本型教育を踏まえた特色ある教育について、事務局から説明をお願いします。

小串指導主事 資料2に基づき説明

教育長

「令和の日本型教育」ということで資料に記載された課題は全国的な課題であり、山梨市においても喫緊の課題となっている。それを含めて留意している点等あれば意見質問をお願いします。

窪田職務代理

この2年間学校でいろいろな行事が中止や縮小したことは承知している。コロナ禍で行事を考え直したことで反対に良かったこともあると思う。教員の働き方改革の話があったが、コロナが終息した時に単純にコロナ前に戻るのではなく、良かったことを洗い出して変えていけるとよい。各学校で考え方に違いはあるだろうが、公務に支障のない程度に検討して、子どもたちと関わりのない仕事を増やさないようにすべきだろう。

武井委員

コロナ禍で訪問活動が非常に少なくなった。もはやウィズコロナを考えねばならない時代の中で、いかに子どもたちを教え、地域との連携をしていくかを探っていかなければならない。今まではできるだけ地域の人を授業や行事に呼ばないようにしてきたが、これからはこの状況で地域とどのように連携して特色ある取り組みを行っていくかを、従来を継続するのではなく探っていくことが重要だ。また、県全

体で教員不足な状況で、市の教員確保も求人にも苦勞していると聞いた。昨年度の学校訪問でも、管理職を含め80時間以上勤務しているという話を聞いた。子どもたちと接する以外のいろいろな業務がコロナ禍でさらに増え、仕事が多すぎる。もう少しゆとりを持って勤務できるよう、省くものは省き、特色ある教育の原点に立ち返ることが大事だ。

矢野委員

昨年度の人事ヒアリングで教職員不足による求人の話を聞き非常に驚いた。校長先生を中心に残業時間を減らすなど働く環境の改善を進めてほしい。ITを活用しながら、教員が子どもと接する機会に恵まれるよう改善してほしい。

教育長

教員不足が問題になっており、意欲的で優秀な先生ほど早期離職をしてしまうようなもったいないこともある。教員の質の確保も大切だと思っている。

佐野委員

昨年度末は養護教諭の人事不足も問題になった。教員のための働き方改革と心のケアを進めてほしい。

教育長

市内の学校ではコミュニティ・スクールを設置して地域と連携を強化している。学校の抱えている問題を地域にお手伝いしてもらおうなど、負担軽減ができればと思う。

小串指導主事

先日磯村課長と学校訪問をしたが、日中は管理職も子どもの対応にあたり職員室がほとんど空のような状態の学校がたくさんあった。これでは突発的な事態に対応できないようなひっ迫した状態だ。余裕を持って子どもや保護者に向き合えるよう取り組んでいきたい。

教育長

次に(3) その他、事務局から何かあるか。

事務局

なし。

教育長

以上で議事を終了する。

議事終了